

予測困難な時代を生き抜くための学習

—自ら学習(体育)を調整する力を育成する授業実践—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系 (保健体育)

氏 名 (中谷優太)

文部科学省は学習指導要領改訂の基本的な方向性として「予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる」ことを目指している。予測困難な時代を生き抜くための学習として本研究では、自ら学習を調整していく自己調整学習を用いて、小学校6年生でボール運動の中にある「ゴール型」で実践した。実践するにあたり、①ゲームの簡易化、②単元構想の工夫、③学習カードの記入の3つを手だてとして行った。このような学習方法を取ることによって、子どもたちの豊かな発想が生かされ、試行錯誤する回数が増えていった。最終的には、先行研究にあったゲーム理解度を図るゲーム様相よりも高いレベルで子どもたちは学習をすることができた。ゲーム様相の発展と資質の因果関係があり断定できるのかももう一度検討する。今回は、ボール運動のゴール型のみの実践であったが、今後はゴール型や体育だけでなく、他領域、他教科でも生かされるように努めていきたい。